

見たい!知りたいたい!もっと笠岡 文化財めぐりハンドブック



2022

笠岡市教育委員会

私たちは、「ずっと笠岡に住み続けたい」「笠岡で子育てがしたい」という思いを、たくさんの方に持っていただきたい、と考えています。でも、笠岡のことを知らなければ、笠岡に対する愛着がわくこともないのではないのでしょうか。

そこで生まれたのが、この冊子です。笠岡の「宝物」といえる文化財や名所を、たくさん紹介しています。

幼少の頃の思い出は、人生に大きな影響を与えます。この冊子を、小学生をはじめ若い世代のみなさんにも活用していただいて、笠岡の素敵なところを見つけるきっかけといただければ幸いです。

笠岡市教育委員会 生涯学習課

◆ 例 言 ◆

- 本書は、令和元年度に作成した『見たい！知りたい！もっと笠岡 文化財めぐりハンドブック』の改訂版です。
- 笠岡の文化遺産や名所について知っていただき、また、現地を訪れるきっかけとなるような冊子を目指しました。基本的に、建物や石造物、遺跡など、いつでも見学することのできるものを中心にご紹介しています。
- 小学生から大人まで、幅広く読んでいただくために、できるだけ平易で簡潔な表現に努めました。

◆ 主な参考文献 ◆

- 笠岡市教育委員会 『笠岡の文化財』 2004 年発行
- 笠岡クイズ王選手権テキスト・問題作成委員会 『笠岡ふるさとガイド』 2007 年発行

	西暦 1 年	500			800		1200	
時代	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉
日本の主なできごと								
	人類が日本列島に登場する	土器を使い始める (一万数千年前)	239 卑弥呼が中国に使いを送る	538 仏教が伝えられる	710 平城京（奈良）に都を移す	794 平安京（京都）に都を移す	1180 源平の戦いがはじまる	1192 源頼朝が征夷大将軍となる (鎌倉幕府)

目次

No.	名称	ページ	No.	名称	ページ	No.	名称	ページ
1	長尾山神護寺	1,2	28	古城山公園	25	55	閑香の塔婆	50
2	神護寺本堂	1,2	29	稲富稲荷神社の本殿及び拝殿	26	56	高島	51
3	甲弩神社の拝殿	3	30	関梟翁の墓	27	57	古代住居跡（王泊遺跡）	52
4	岡田の棕樹	4	31	応神山	28	58	白石島	53
5	延福寺跡	5,6	32	ワコモミュージアム	29	59	白石踊	54
6	持宝院の梵鐘	5,6	33	笠岡市立竹喬美術館	30	60	白石島の鎧岩	55
7	持宝院のヤマモモ	5,6	34	笠岡市立図書館	31	61	開龍寺	56
8	小池の古墳	7	35	石像仏龕（板碑）	32	62	白石島の石灯籠	56
9	弓場山古墳	8	36	笠岡市立郷土館	33	63	千ノ浜の護岸景観	57
10	長福寺裏山古墳群	9	37	遍照寺の梵鐘	34	64	北木島の丁場湖	57
11	木山捷平生家	10	38	菅原神社の本殿	35	65	北木石の丁場	58
12	井立のネズの木	10	39	菅原神社眼鏡橋 附眼鏡橋碑	36	66	北木島石切唄	59
13	笠岡市井笠鉄道記念館	11	40	金浦のヒッタカ	37	67	旧映画館「光劇場」	60
14	関戸廃寺跡	12	41	金浦のおしぐらんご	38	68	北木島の石工用具	61
15	吉田木勢以の五輪石塔	13	42	かさおか太陽の広場	39	69	北木島の流し雛	62
16	エヒメアヤメ自生地	14	43	道の駅 笠岡ベイファーム	40	70	真鍋家住宅	63,64
17	春日神社石鳥居	15	44	カブトガニ繁殖地	41	71	真鍋島のホルトノキ	63,64
18	諏訪神社のクスノキ	16	45	笠岡市立カブトガニ博物館	42	72	沢津丸の宝塔	65
19	篠坂のナツメ	16	46	津雲貝塚	43	73	真鍋島の走り神輿	66
20	遍照寺多宝塔 附 石碑	17,18	47	鳥越新兵衛成寿の墓	44	74	真鍋城跡	67
21	遍照寺の枝垂れいちょう	17,18	48	幻虹台	45	75	真鍋島の五輪石塔群	68
22	小田県庁跡	19	49	御嶽山量剛寺跡	46	76	真鍋大島のイヌグス	68
23	敬業館の跡	20	50	正頭の五輪石塔	46	77	大飛島洲の南遺跡	69
24	小寺清之の墓	21	51	竹田稲荷のアベマキ	47	78	六島の灯台	70
25	森田思軒の墓	22	52	大島の傘踊り	48	79	大石山	70
26	代官 井戸平左衛門の墓	23	53	神島史料館	49			
27	井戸公園	24	54	神島天神祭	49			

1500

1600

1700

1800

1900

2000

室町

戦国

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

平成

令和

1338
足利尊氏が征夷大將軍となる
(室町幕府)

1467
応仁の乱がはじまる

1603
徳川家康が征夷大將軍となる
(江戸幕府)

関ヶ原の戦い

鎖国を行う

1853
ペリー来航
伊能忠敬が日本地図を作る

1868
明治維新
日清・日露戦争
大日本帝国憲法ができる

1924
関東大震災がおこる

1941
太平洋戦争がはじまる

1946
日本国憲法ができる
1964
オリンピック東京大会が開かれる

2011
東日本大震災がおこる

2021
オリンピック東京大会が開かれる

1

なが お さん じん ご じ 長尾山神護寺

市指定史跡

アクセス「甲弩」バス停から
徒歩15分 現地に駐車場あり

笠岡市甲弩816 神護寺境内



むろ まち じ だい さか こ さつ 室町時代に栄えた古刹！

来迎院神護寺は真言宗大覚寺派に属し、行基菩薩が開いたと伝えられています。
もとは「^{じん ぐう じ}神宮寺」と呼ばれており、^{だい ぼう}大坊・^{ちゅう ぼう}中坊・^{はん にや ぼう}般若坊・^{しょう えん ぼう}正円坊・^{ちよう ふく ぼう}長福坊・^{じよう がく ぼう}上学坊
の6つの坊をもった大きな寺院でした。このうち大坊が残って、今日の神護寺と
なっています。

室町時代には、このあたりを治めていた小田氏の助成によって栄えていました。
神護寺には今でも、^{ほん だう}本堂を再建した小田^{お だ}高^{たか}清^{きよ}の位牌が伝わっています。小田氏は、
^{げん ざい}現在の^{や かげ ちょう お だ}矢掛町小田から^{かさ おかし やまぐち}笠岡市山口あたりまでを領有する戦国武将でした。

2

じん ご じ ほん だう 神護寺本堂

県指定重要文化財



し ない さい こ もく ぞう けん ちく 市内最古の木造建築です！

神護寺本堂は、市内に残る木造建築のなかで一番古いものです。屋根を支える棟
木には、^{せん ごく じ だい}戦国時代の永禄11（1568）年に小田^{ねん}高^{お だ}清^{たか}の命により、^{ふじ わらの り ひさ}藤原^{だいく}乗久が^{えん}大工と
なって建てたことが書かれています。また、^{てん しょう}天正15（1587）年には高^{ねん}清^{たか}の息子・^{むす こ}元
家によって屋根に瓦がふかれました。向^{こう}拝^{はい}（前に張り出した拝む場所）などは江戸
時代のものですが、柱や屋根はほぼ完成当初のものが残されており、いつ、誰が建
てたのかが^{あき}明らか^{むろ まち じ だい}な室町時代の建築として高く評価されています。



寺道橋から見た神護寺





そう こん もり た じん じゃ はい でん
荘厳な森に建つ神社拝殿！

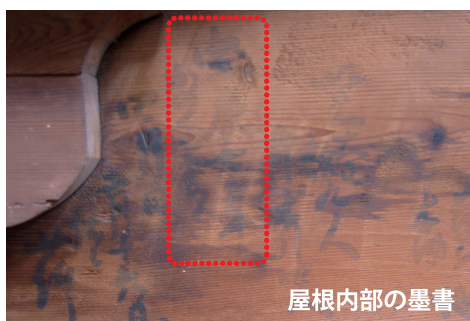


甲弩神社の拝殿は市内最古級の拝殿建築といわれています。屋根の内部には、江戸時代の宝永7(1710)年に塩田長右衛門安次(読み方不明)が棟梁(かしら)をつとめて再建したことが書かれています。また、寛永14(1637)年から大正15(1926)年までの棟札が残っており、建物の建立、再建、修繕の歴史をたどることができます。拝殿の前に宝永7年と刻まれた手水鉢がありますが、これは拝殿を再建した時に寄進されたものかもしれません。



拝殿前の手水鉢

宝
永
七
年



屋根内部の墨書



でんしやう しん こう いま つた ゆい しよ きよ ぼく
伝承と信仰を今に伝える由緒ある巨木！



岡田の棕樹は、浅尾家の敷地内にあるムクノキです。幹の周囲4.6m、高さ約28mで、遠くから見ても目立っています。推定樹齢は400～500年といわれています。樹下に「ダサー様」と呼ぶ小さな祠があり、役神（厄神）、摩利支天、十二神がまつられています。昔、この地にたどりついた浅野矢太夫（弥太夫）が、かつて城中でまつっていた神様を、ムクノキの下に祠を建ててまつたのが始まりと言い伝えられています。



樹下にまつられた祠

5

延福寺跡

市指定史跡

アクセス 北川小学校から車で10分
現地に駐車場あり

笠岡市走出1304 持宝院境内



へい あん じ だい むろ まち じ だい さか さんじょう じ いん
平安時代にはじまり、室町時代に栄えた山上寺院！

現在、持宝院のある場所には、かつて延(円)福寺という寺院がありました。平安時代の天長6(829)年に壹演(一圓)和尚によって開かれたと伝えられています。南北朝時代の1351年には「延福寺山合戦」の戦場となりました。室町時代には小田乗清が梵鐘(6持宝院の梵鐘)を寄進していることから分かるように、小田氏の助成を受けて栄えていました。その後、江戸時代初め頃にはおとろえたようです。寛文12(1672)年、延福寺の跡地に現在の井原市にあった持宝院が移転してきて、今日にいたっています。

6

持宝院の梵鐘

県指定重要文化財



めい ぶん かた せん らん ぬ けん ない さい こ ほんしやう
銘文は語る！ 戦乱をくぐり抜けた県内最古の梵鐘！

持宝院の梵鐘は、高さ120cm、口径71cmの青銅製の釣鐘です。鎌倉時代の建長3(1251)年に肥前三郎資泰が現在の井原市にあった頂見寺のために造ったものです。その後、戦国時代に庄氏が矢掛の猿掛城へ持ち帰りますが、落城によって小田川に転落したといいます。これを小田乗清が買い取って、永禄12(1569)年に延福寺に寄進しました。その後、延福寺跡に移転した持宝院が受けついで今日にいたっています。

7

持宝院のヤマモモ

市指定天然記念物



こけ なに かた
苔むしたヤマモモは何を語るのか！？

持宝院のヤマモモは、推定樹齢約300年で県下有数のヤマモモの巨樹です。幹の周囲は約2.8m、高さは約11mにもなります。この木を取り囲むように土堀が設置されていたことから、堀を作った江戸時代の享保年間(1716～1736)には、すでにある程度の大きさだったと思われます。現在、土堀は取り払われていますが、樹勢は旺盛です。ヤマモモは温暖性の常緑高木で、雌株には赤い実がなります。持宝院のヤマモモは雄株なので実はありません。



延福寺跡（現在の持宝院境内）



持宝院の梵鐘



持宝院のヤマモモ





ちようふく じ うちやま こ ふんぐん こう けいしや し ないさいだい よこあな しき せきしつ
長福寺裏山古墳群の後継者!? 市内最大の横穴式石室!



こ いけ こ ふん ちようふく じ うちやま ぜん ちようやく さい だい こう やく きょ だい よこあな しき せきしつ
小池古墳は、直径約30mの円墳です。全長約11m、最大高約3mの巨大な横穴式石室があることで知られています。石室の入口が口を開けており、石室内を見学することができます。出土品は知られていませんが、石室の形から古墳時代の6世紀に造られたと考えられます。この山の頂上には、5世紀に造られた長福寺裏山古墳群があります。もしかすると、その後継者となった豪族の墓なのかもしれません。



横穴式石室

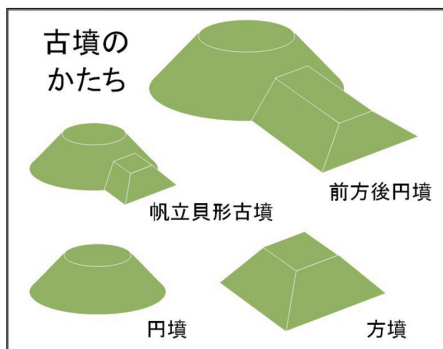




ちい こ ふん なに かた せい き どう ち じ じょう
小さな古墳は何を語るのか!? 5世紀のご当地事情!



ゆん ば やま こ ふん ちよう けい やく えん ふん ほう かつ ちよう き ひら いし く み はこ しき せつ
弓場山古墳は、直径約10mの円墳です。発掘調査によって、平石を組み合わせた箱式石
棺1基が見つかりました。石棺の中には1体の人骨が残り、副葬品として鎌、斧、鍬先、刀などが
かん き み せい かん なか たい じん こつ のこ ふく そう びん かま おの くわ ざき かたな
置かれていました。人骨は、かなり若い成人男性の骨であると鑑定されています。出土品から古
お じん こつ わか せい じん だん せい ほか かん てい しゆつ ど びん こ
墳時代の5世紀に造られたと考えられ、長福寺裏山古墳群を造った豪族との関係が注目され
ふん じ だい せい き づく かんが ちよう ふく じ うら やま こ ふん ぐん づく ごう ぞく かん けい ちよう ぐく
ます。現地には石棺の蓋石が顔をのぞかせています。



10

ちやう ふく じ うら やま こ ふん ぐん
長福寺裏山古墳群

アクセス 現地に駐車場あり

市指定史跡

笠岡市走出・山口 かさおか 古代の丘スポーツ公園



いち ど み かさおか ぜん ぼう こう えん ふん
一度は見ておきたい！ 笠岡にもあった前方後円墳！



七つ塚1号墳出土土器

仙人塚古墳の竪穴式石室

仙人塚古墳

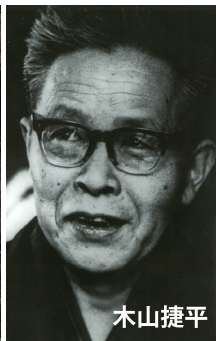
長福寺裏山古墳群は、5世紀に造られた古墳群で、山の上に11基の古墳が点在しています。公園の一部として見学路が整備されており、気軽に訪れることができます。発掘調査によって、埴輪や須恵器、鉄器などが見つかりました。初めに七つ塚1～4号墳が築かれ、その後、双つ塚古墳、仙人塚古墳、東塚古墳の順で造られたと考えられています。双つ塚古墳は墳長60mの前方後円墳で、井笠地域で最も大きな古墳です。仙人塚古墳は墳長43mの帆立貝形古墳で、竪穴式石室を見学することができます。





にい やま う にんげん み し じん しょうせつ か
新山が生んだ人間味あふれる詩人・小説家！

めい じ
明治37(1904)～
しょうわ
昭和43(1968)年



木山捷平

き やま しょう へい にい やま
木山捷平は、新山
そん やま ぐち げん かき おかし
村山口(現:笠岡市
やま ぐち う し
山口)生まれの詩
じん しょう せつ か ちやう
人・小説家です。長
へん しょう せつ たい りく ぼそ
編小説『大陸の細
みち おお さく ひん
道』など多くの作品
のこ
を残しました。

せい か めい じ じ だい
生家は明治時代

たてもの どう じ おも かげ の こ き やま しょう へい さく ひん せ かい あじ
の建物で、当時の面影を残しており、木山捷平作品の世界を味わうことができます。

き やま しょう へい さい な せい か う やま ぼ ち ねむ
木山捷平は64歳で亡くなり、生家裏山の墓地で眠っています。



かい どう みち ゆ ひと み まも こ ぼく
街道で道行く人を見守ってきたネズの古木！



い だち き すい てい じゆ れい やく ねん けん か
井立のネズの木は、推定樹齢約300年で県下
ゆう すう きよ じゆ みさ しゆう い やく たか
有数のネズの巨樹です。幹の周囲は約3m、高さ
は15mにもなります。根元には塞の神の祠があ
り、むかし しん ぼく ほころ たい せつ
昔から神木として祠とともに大切にされ
ています。塞の神は、村の入り口で、よそから
はい こ おそ ふせ かみ さま
入り込んでくる恐ろしいものを防ぐ神様で
す。この木の下を通る道は、北東へ行くと走出
から矢掛方面に、なん せい い ばら し もん でん
南西へ行くと井原市の門田
ちやう づつ
町へと通じています。

ねず しん しょう じゆ ち ほう よ
ネズは針葉樹で、この地方ではモロギと呼
ばれています。

13 笠岡市井笠鉄道記念館

笠岡市山口1457-8

アクセス 「新山」
バス停から徒歩10分
現地に駐車場あり



ファンも納得！ 井笠鉄道の歴史を伝える産業遺産！



井笠鉄道は、大正2(1913)年に営業運転を始めてから、昭和46(1971)年に廃止されるまで、およそ60年にわたって住民の生活を支える足として活躍しました。記念館の建物は、井笠鉄道が開業した大正2(1913)年に建てられた旧新山駅舎で、かつての待合室を利用した展示室には井笠鉄道ゆかりの資料や往時の写真などを展示しています。屋外には、機関車、客車、貨車などを展示しています。

開館時間／9:00～17:00

休館日／月曜日、年末年始
(月曜日が祝日のときは火曜日)

入館無料





し ない さいしょ た じ いん あと
市内で最初に建てられた寺院の跡です！



関戸廃寺跡の塔跡

関戸廃寺跡は古代の寺院遺跡です。発掘調査によって金堂や塔などの建物跡が見つかり、南北130m×東西130mもの広い敷地だったことが分かりました。出土した瓦の模様を調べると、飛鳥時代の7世紀後半に金堂、次に塔が建てられたことが分かりました。平安時代の11世紀には主な建物が焼失してしまったようです。現在、遺跡は水田や公園になっていますが、その一角に塔の心柱を据えるための礎石が顔をのぞかせています。



発掘調査で見つかった金堂の瓦



あ づ ち も も や ま し だ い ぶ し は か
安土・桃山時代の武士の墓！

よし だ き せ い ご りん とう
吉田木勢以の五輪塔は、
徳田氏、小田氏などの先祖
墓と伝えられています。徳田
氏の古記録によると、もとあ
ま子家の家臣であった鈴木四
郎重則が、徳田万五郎と名
乗ってこの地で暮らし、その
後、息子の方四郎重成が
父の七回忌にあたる天正4
(1576)年に五輪塔を建てた
といわれています。台石に
は、慶長12(1607)年に亡く
なった母を合葬したという銘
文があったといいますが、現
在では風化のため判読できま
せん。



北側からの遠景





さと やま

里山にひっそりと咲く可憐な花！

さ

か

れん

はな



エヒメアヤメ

笠岡市吉田には、エヒメアヤメの自生地があります。エヒメアヤメは、岡山県希少野生動植物にも指定されているとても珍しい植物です。4月になると紫色の可憐な花を咲かせますが、1週間ほどでしぼんでしまいます。日本、朝鮮半島、中国に分布しており、笠岡市が世界で最も東の自生地といわれています。自生地は見学できませんが、吉田にある箱田山神社の境内には地元の方たちによって公開用の栽培園が作られ、4月中旬の開花時期に合わせて「エヒメアヤメまつり」が開かれます。



エヒメアヤメまつりの様子





けん か かす すく むろ まち し だい とり い
県下でも数少ない室町時代の鳥居！



小平井の春日神社参道にある石鳥居は、明神鳥居と呼ばれる形で、高さは約4mあります。「春日宮」と刻んだ扁額（額束）の裏側には「領主渡辺奎之允正 天文五丙申年九月」と刻まれており、室町時代の天文5（1536）年に当時の領主であった渡辺奎之允正が寄進したことが分かります。いつ、誰が建てたのかが明らかで、しかも当初の部材がよく残ることから、室町時代の石鳥居の基準作となっています。



扁額（額束）
裏面の銘文



18

諏訪神社のクスノキ

市指定天然記念物

アクセス 「園井」バス停から
徒歩5分 現地に駐車可能

笠岡市園井1066 諏訪神社境内



かん スケール感ばつぐん！ そびえたつクスノキ！



園井の諏訪神社は、長野県諏訪大社の分霊をまつたのが始まりといわれており、境内にはクスノキの巨樹があります。幹の周囲約5m、高さは約26mにもなり、推定樹齢は約400年といわれています。



19

篠坂のナツメ

市指定天然記念物

アクセス 「広東」バス停から徒歩15分

笠岡市篠坂 字松葉左 個人宅



めすら ろう ぼく 珍しいナツメの老木！



篠坂のナツメは、金平家の軒先にあります。幹の周囲1.7m、高さ約9m、推定樹齢約250年です。ナツメは落葉低木ですが、この樹はナツメとしては県下有数の巨樹老木です。

